

日本財団「子ども WEEKEND」が東京で開催されました



令和6年2月17日(土)、大手町三井カンファレンスにて、日本財団が主催する「こども」にフォーカスしたイベント『こども WEEKEND』が開催されました。

中高生が参加する会場で行われたのは、レクリエーションを通して楽しみながら子どもの権利を学ぶプログラム「QuizKnock アカデミー～子どもの権利を学ぼう～」。若者を中心に人気を誇る QuizKnock のメンバー、伊沢拓司氏、須貝駿貴氏、東言氏が登場し、こどもの権利について学ぶゲームとクイズを実施しました。プログラムの一貫として、こどもに関する権利や法律についての理解を深める講義も開催。日本

財団の高橋恵里子氏とこども家庭庁の工藤双葉氏が参加し、「子どもの権利条約」や「こども基本法」、国の取組などを紹介しながら、こどもの権利について QuizKnock とトークセッションを行いました。こども政策担当大臣からは、イベントに参加したこども達に向けたビデオメッセージが送られました。



こどもの人権について学ぶ様子



グループで出た意見を発表する参加者



トークセッションの様子



加藤大臣からのビデオメッセージ

「QuizKnock アカデミー～子どもの権利を学ぼう～」

「子どもの権利を学ぼう」というテーマのもと、QuizKnock の伊沢氏、須貝氏、東氏がゲームやクイズを出題。最初のゲームは「嘘の話をしている人は誰？人狼ゲーム」。「こどもの人権を守る海外での取り組み」について話す3名のうち、嘘の話をしている1名を見つけるゲームです。中高生たちは、話し合うコツとして相手を尊重しながら自分の意見や気持ちを伝える「アサーティブ・コミュニケーション」を教わりながら、議論を交わしていました。最後は嘘をついている疑いのある人物と選んだ理由を参加者同士で発表し、意見を共有しました。続いて行われたのは、「クイズすごろく」。マスに止まるごとにクイズが出題され、正解しながらゴールを目指すゲームです。今日の学びを活かした出題内容で、自分の回答に自信を持って手を挙げる姿が印象的でした。クイズ終了後の参加者の感想では、「自分の言いたいことを発信できる場があり、それを聴いてくれる大人がいることを知り、安心できた」などの声が寄せられました。

日本財団×QuizKnock×こども家庭庁トークセッション

「あなたの持っている権利について考えよう」

ゲームの間には日本財団の高橋氏とこども家庭庁の工藤氏が登場し、QuizKnock とトークセッションを行いました。高橋氏が、そもそもこどもの権利とは何か、どんな権利が守られているのかを条例を紹介しながら解説。こどもには権利を守るための「子どもの権利条約」があり4つの基本原則があること、例えばこどもは自由に意見を言うことができ、大人はそれを尊重しなければならないと定められているが、条約があっても権利が守られていない現実があることにもふれました。トークではブラック校則が話題に挙がり、こども達に自分のまわりの「変だと思えるルール」を聞きながら、個人の我儘と権利の線引きについても言及しました。また、日本と世界のこどもの幸福度(親や先生に自分の意見を大切にしてもらった経験)の格差にもふれ、こどもの意見を聞くことの大切さを伝えました。さらに、工藤氏は昨年4月に施行された「こども基本法」を紹介し、国がこどもの意見に耳を傾け、こどもをまんなかに据えた取組を実施していることを紹介。こどものみなさんが積極的に意見を表明し、大人がそれを尊重しながら、一緒にこどもまんなか社会を作っていくことの重要性を訴えました。

【概要】名称:「日本財団 こども WEEKEND」 / 場所:日本財団ビル、大手町三井カンファレンス / 日程:令和6年2月17日(土) / 内容:《レクリエーション》 QuizKnock「QuizKnock アカデミー～子ども権利を学ぼう～」 / 《トークセッション》日本財団、QuizKnock、こども家庭庁「あなたの持っている権利について考えよう」 / 主催:日本財団、QuizKnock / 後援:こども家庭庁